

令和8年度 北海道七飯養護学校経営方針

【教育目標】

子どもを真ん中に—自立と社会参加に向けて必要となる資質・能力を身に付ける—

【学校経営の基本理念】

「子どもを真ん中に」を合言葉に、教職員・保護者・地域がワンチームとなり、子どもの20年後の幸せを共に描きます。

【目指す学校像】

学校と地域が互いに助けを求め合い、感謝したり感謝されたりする互恵的な学校

【目指す児童生徒像】

□ 「自分で自分の明日（あした）をデザインできる」

周りに決められるのではなく、統一された分かりやすい環境の中で、「次はこれをしよう」「こうなりたい」と、自分自身の見通しを持って主体的に動きます。

□ 「自分らしい方法で、想いを分かち合える」

言葉だけでなく、ICTや写真など自分に合った道具を使いこなし、自分の意思を伝えます。「自分で選んだ」という自信を胸に、自分らしい方法で表現します。

□ 「誰かの役に立つ喜びを知り、社会に居場所がある」

学校の中だけで終わらず、地域住民や地域の学校で学ぶ児童生徒との関わりを通して、「ぼく・わたしの得意なことが、誰かの笑顔につながる」という社会の一員としての実感を持ちます。

【育成すべき資質・能力と3つの約束】

1 「分かる・見通せる」から、安心できる（知識・技能）

- ・ 行動マトリクスを用いた指導の重視：視覚支援（写真・ICT）を全校で統一。ただし、「本当に必要な子」への最適化を常に検討し、一律の押し付けにならない「血の通った環境作り」を目指します。
- ・ 「できた感」の重視：スモールステップで「できた！」を積み重ね、自己肯定感を育みます。

2 「できる・選べる」から、自信がもてる（思考力・判断力・表現力等）

- ・ 自己決定の日常化：コミュニケーションは人権。授業や行事の中に「自分で選ぶ」場面を意図的に創出します。
- ・ 社会との接点（シチズンシップ）：「見学→参加→貢献→主導」のステップを経て地域の事業所や「交流及び共同学習」等を通じ、社会と関わる喜びを体感します。

3 「認めてくれる・つながる」から、うれしい（学びに向かう力・人間性）

- ・ ポジティブ行動支援（PBS）：欠点ではなく「今、頑張っていること」に光を当て、意識して褒める文化を定着させます。
- ・ 協働的な経験：教師との関わりだけでなく、近隣校も含めた児童生徒同士の「認め合い・助け合い」の経験を大切にします。

【持続可能な組織運営と働き方改革】

「大人の心に余裕がなければ、子どもの笑顔は守れない」という決意のもと、以下の改革を行います。

- 「前例踏襲」からの脱却：コロナ禍で簡略化・効率化された業務のうち、好評だったものは継続します。「全てを前に戻す」のではなく、今の実態に合わせた「最適化」を選択します。
- 業務の平準化等による「余白」の創出：子どもたちと向き合う時間を確保するため、業務の平準化、会議の精選、ICTによる効率化、ボランティアの活用を徹底し、教職員の心身の健康を最優先します。
- 心理的安全性の確保：評価を恐れず本音で話せる体制や、互いの家庭状況を尊重し合えるチーム作りを推進します。
- 専門機関等との連携：デイサービスや保護者、外部専門員とのケース会議を推進し、個別のニーズに対する「目標や手立ての共有」を円滑に行います。
- 学校経営への参画を推進：学校課題の解決に向け、教職員の経験や興味・関心に基づいたプロジェクトチームを随時立ち上げ、学校経営を身近に感じられる取組を推進します。

- **ウェルビーイングの向上**：同僚・協働性と自主・向上性の尺度を用いながら点検を行い、教職員が組織の状況を考えながら個人の能力を発揮することに「喜び」を感じることでできる環境を整えます。

【令和8年度の重点】

「子ども真ん中に」ワクワクする学校～チームから組織へ～

- ① 児童生徒の人権を大切にする学校
 - ・「自分には良いところがある」と感じられる教育活動の充実（R 7：96.0%）
 - ・「良いところを褒められたり、認められたりする」教育活動の充実（R 7：97.4%）
 - ・「生徒指導の基本的な考え方や具体的な対応方法に関わる共通理解」の充実（R 7：54.5%）
- ② やりがい、教職員としてのウェルビーイングを感じる学校
 - ・教職員による学校評価において「自律的共同群」に位置すると感じる教員の増加（R 7：56.4%）
- ③ 保護者や地域住民、関係者とのつながりを感じる学校
 - ・保護者による学校評価回収率の向上（R 7：73%）